



心筋血流 PET および SPECT を用いた左室収縮機能の保たれた心不全および左室拡張障害の評価についての研究

2012年8月1日～2023年3月31日に心筋血流 PET もしくは2017年8月1日～2023年3月31日に心筋血流 SPECT 検査を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「心筋血流 PET および SPECT を用いた左室収縮機能の保たれた心不全および左室拡張障害の評価についての研究」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、日本医科大学付属病院にて2012年8月1日～2023年3月31日に心筋血流 PET 検査を受けられた、もしくは2017年8月1日～2023年3月31日に心筋血流 SPECT 検査を受けられた患者さんを対象に、PET や SPECT 検査で得られる検査結果と心肥大や心不全との関係を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：心筋血流 PET および SPECT を用いた左室収縮機能の保たれた心不全および左室拡張障害の評価についての研究

研究期間：研究実施許可日～2024年3月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 放射線科 大学院教授 汲田伸一郎

(2) 研究の意義、目的について

心不全は全身に血液を送る心臓のポンプ機能が低下した病態ですが、左室の収縮機能が保たれた心不全と左室の収縮機能が低下した心不全の大きく二つに分けられます。このうち、左室収縮機能の保たれた心不全は高齢者に多く、心筋梗塞や心臓の弁に異常をきたす弁膜症などの左室の構造的な異常は少ない一方で、心筋への血流の増減を調節する冠動脈の最末梢の細動脈の異常（微小循環障害）が大きく関与していると言われていています。また、左室の収縮機能の低下は心肥大などで代償的に保たれている一方で、拡張機能は障害されています。左室の拡張障害を反映する画像検査の指標はありますが、信頼性および反復性の高い指標は未だ十分に確立されていません。病態評価のために微小循環障害や拡張障害を適切に評価したり、心不全の発症前や病初期に適切にスクリーニングを行うために、信頼性のある指標の確立が求められています。本研究では心筋血流 PET あるいは SPECT から得られる微小循環や拡張機能を含む指標と心肥大や心不全との関係を明らかにし、左室機能の保たれた心不全の病態評価に有用な指標を探索することを目的といたします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

日本医科大学付属病院において心筋血流 PET については2012年8月1日～2023年3月31日、心筋血流 SPECT については2017年8月1日～2023年3月31日に検査を受けられた患者さんを対象に、心筋血流 PET や SPECT で得られた指標と心肥大や心不全との関係を調査し、左室機能の保たれた心不全の評価における PET および SPECT の有用性を検討する研究を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、血圧、心不全に関わる血液データ、PET・SPECT、超音波や心臓 MRI といった画像データ

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「共同倫理指針ガイドンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 放射線科 講師 桐山 智成

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：6755

メールアドレス：s7026@nms.ac.jp